

欧米における人材育成拠点等の海外調査について

2012年2月6日

独立行政法人科学技術振興機構

研究開発戦略センター

1 調査概要

独立行政法人科学技術振興機構研究開発戦略センター（JST-CRDS）では、文部科学省委託調査「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業」における基盤的研究・人材育成拠点を核としたネットワークの構築及びコミュニティの形成並びに同事業の成果の構造化・共有・活用に向けた調査の一環として、我が国における「政策のための科学」関連の人材育成機関間ネットワークの構築と多様な参加者からなるコミュニティ形成に向けた検討に資するため、欧米の同種の取組の事例の調査分析を行う。

2 主な調査対象

- ① 欧米における「政策のための科学」に関連する人材育成拠点（例：米国ジョージ・ワシントン大学、カーネギーメロン大学等、英国サセックス大学、国連大学マーストリヒトイノベーション・経済社会研究所等）
- ② ネットワーク構築、キャリア形成支援等取組を支援している機関や関係者（米国 AAAS、ナショナル・アカデミー、欧州委員会等）

3 主な調査項目

- 1) 人材育成拠点における育成人材のキャリアパスの現状と課題
例：どのような背景の人材が入ってきているか？どのような就職先があるか？キャリア形成支援の取組を行っているか？等
- 2) 人材育成拠点間でのネットワーク形成の取組
例：他の拠点と研究・人材育成面でどのような協力を行っているか？ 共同のプログラム等の有無及びその実施体制等。
- 3) 多様なコミュニティ形成の取組の現状と課題
例：具体的活動内容はどのようなものか？コミュニティの参加者数や範囲はどのように拡大しているか？
- 4) 政府機関等による上記の取組に対する支援策
例：機関間ネットワークやコミュニティ形成、育成された人材のキャリア形成に対してどのような支援を行っているか？

4 実施状況と今後の予定

- 2012年1月 基盤的研究・人材育成拠点関係者との意見交換を通じて、往訪調査先の選定及びスケジュール調整
- 2～3月 調査実施、とりまとめ
- ※往訪調査では、一部拠点関係者と同行予定。また拠点関係者が出張等で関連拠点を訪問するときは同様のインタビューをしてもらえるように依頼。

(参考1) 往訪調査予定先大学概要

1. 米国

- ジョージ・ワシントン大学 エリオット国際関係学部 科学技術・公共政策プログラム
経済学を中心とした社会科学のアプローチに比重。修士課程を持ち、学生の多くが自然科学のバックグラウンドを持つ。ワシントンD.C.地区という地の利を活かし、学生のインターンシップや政策担当者の社会人学生、政府機関からの助成研究等を通じた政策形成との近さが強み。
- カーネギーメロン大学 工科大学院工学・公共政策学科
エネルギーと環境システム、情報技術政策、リスク分析と規制等、工学と公共政策における問題に焦点。ダブルメジャーを含む学士課程、ジョイントディグリーを含む修士課程、そして博士課程を持つ。自然科学系のバックグラウンドを持った学生が主流。

2. 欧州

- 国連大学マーストリヒト イノベーション・技術経済社会研究所 (UNU-MERIT)
先進国と途上国の技術変遷と経済学的分析に強み。2006年に国連大学とマーストリヒト大学と共同で創設。博士課程を有し、海外からの留学生が主で、うち8割は途上国。2011年、現所長のリーダーシップにより、マーストリヒト大学のガバナンス大学院が合併し、新たにリスク・アセスメントや政策分析、評価などを対象とする、修士課程と博士課程が追加された。
- サセックス大学 SPRU(Science and Technology Policy Research)
経済学、経営学、公共政策学、社会学等をベースとした科学技術イノベーション政策及びその分析手法に関する中核的な教育研究。環境、エネルギー、産業、開発援助、農業等に関連した各論的な科学技術イノベーション政策に関する教育や、イノベーション・マネジメントコースも併設。フルタイム換算で教員40人程度(インタビューによる。)を擁する(英国最大規模)。

(参考2) 欧米の人材育成拠点における学生の属性・キャリアパス等やネットワークに関する主な状況

(海外調査報告書『科学技術イノベーション政策の科学』に関連する海外教育研究機関)(2011年3月 JST-CRDS)に基づき作成)

1. 大学院に所属する学生の属性

○学部卒業生がすぐに入学する大学が主である大学は少なく、ある程度(数年)の職業経験者が多いのが一般的。多くの大学は、海外からの留学生の割合が高い。

○入学者の学問的バックグラウンドは、教育プログラムの目的に応じて理工系出身者が大半を占めるところや、理工系・人文社会科学系で多様なところなど様々。

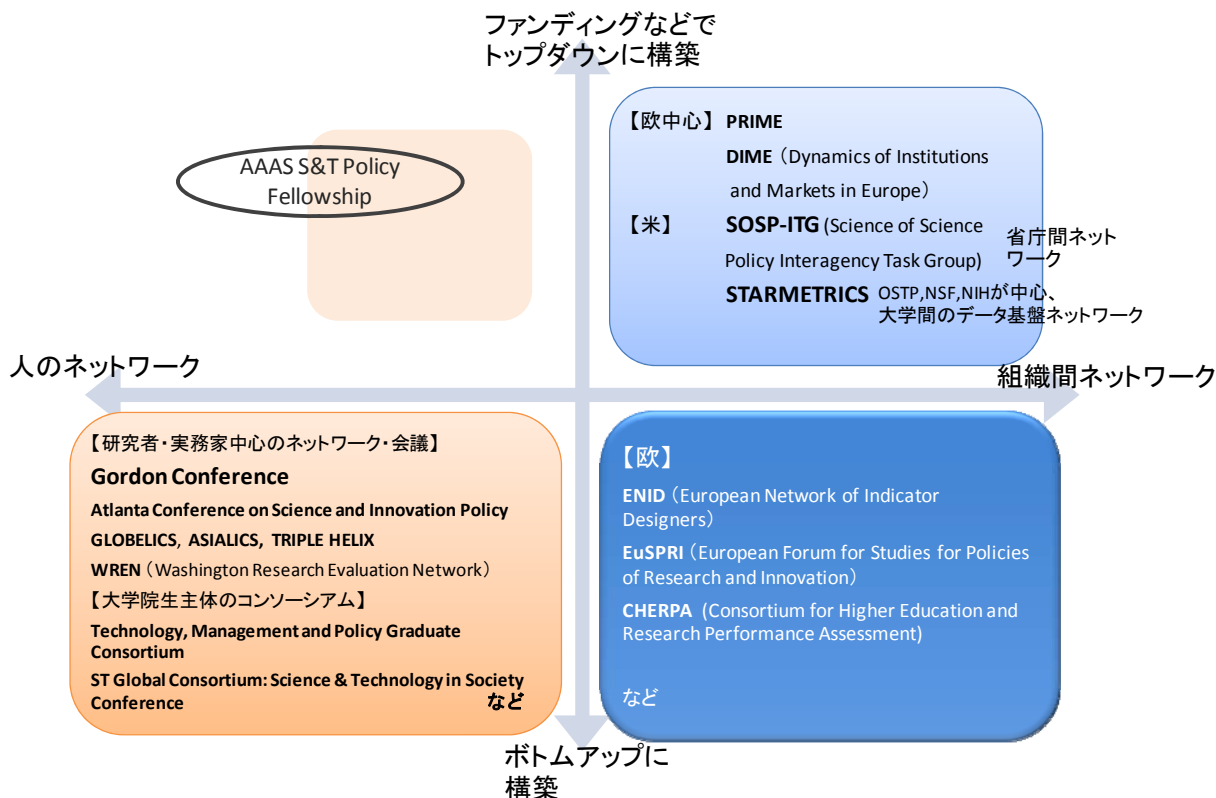
2. 卒業生の進路

○大学の組織・部門のミッションや人材育成プログラムの設計により、卒業生の進路は異なる。留学生の場合は母国に戻って就職するが多い。

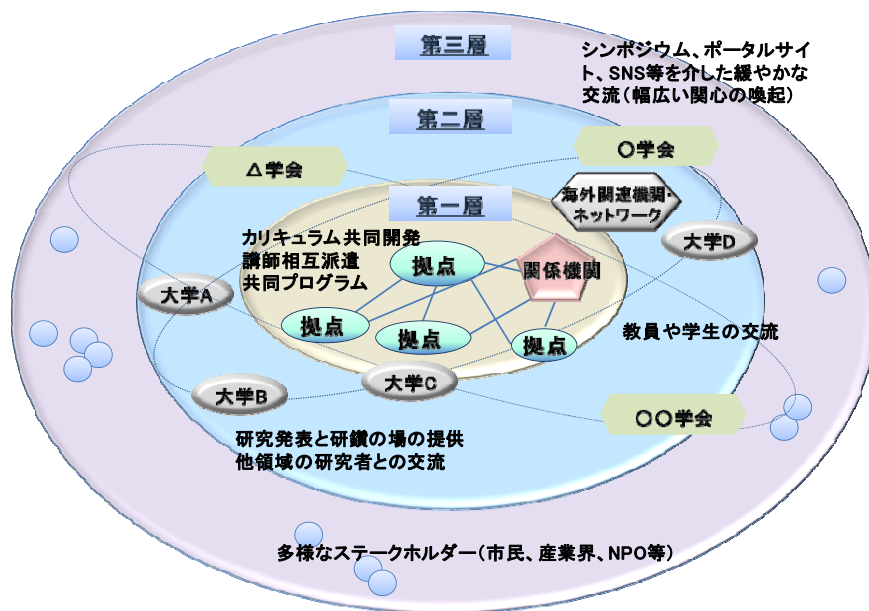
○政府関係機関(国、地方自治体)、一般の民間企業のほか、大学等で教鞭をとる場合、コンサルタント会社、シンクタンク、非営利団体等でアナリストとして活躍する場合、また、国立研究所、専門誌出版業界、国際機関に進路を求める場合、などが挙げられた。

3. ネットワーク・コミュニティ形成に係る取組

○ネットワークには、各機関の関心に基づきボトムアップで形成されるものと、資金提供等によりトップダウンで誘導して形成されるものがある。また、個人ベースでの交流を重視したものと、機関間での連携・協力を重視したものに分けられる。



○長期的基盤としてのネットワーク形成を念頭に置くと、機能ごとに重層的にネットワーク・コミュニティが国際的に形成され、開かれたネットワークとなることの重要性が示唆された。



以上